

自主防災と婦人防火クラブ

山形県婦人防火クラブ連絡協議会会長 齋藤春子



昭和17年11月17日、25mの強風に遭い、村の半分の180戸が焼失し、我が家も何も残らずに焼けてしまいました。

昭和49年10月にも近くの酒田市で、やはり25mの強風のため1,200戸が焼失しました。どんなに消防力が強化されようとも、自然の力には敵わないことがたくさんあります。

大火後、私たちの地域では自主防災組織を作り、婦人防火クラブを作り、婦人消防隊を作り、強固な防災に備えて参りました。

その後阪神・淡路大震災で、消防団や警察よりも近くの人々が多くの人々の命を救ったという報道を聞き、自主防災の大切さを強く実感いたしました。

私達鶴岡市でも21学区すべての町内に自主防災組織ができ、毎年モデル地区を選定し強化に努めております。

また私は、以前から自主防災と婦人防火クラブの関係をすっきりさせなければと思い、県の研修大会でもこのテーマをもとにしてシンポジウムを開催したこともあります。

しかし、今年の県の委員会である地区の会長から、「自主防災をきちんとやると婦人防火クラブはいらないのではないか」という発言がありました。

婦人防火クラブは自主防災の一員ではあるけれども、組織の力を生かして、初期消火・炊き出し訓練・心肺蘇生法・救急法・常時の家庭の備え等の訓練を積み重ねていくことが何より大切だと、私は思います。

(消防庁機関紙「消防防災／2003-6・秋季号」より転載)

[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1. 自治体消防55周年記念表彰及び記念大会の実施](#)
- [2. 平成15年度都道府県婦人防火クラブ連絡協議会 幹部地域研修会開催](#)
- [3. 松岡会長が旭日小綬章を受章](#)
- [4. 防火管理講習始まる](#)
5. 道府県婦人防火クラブ連絡協議会 会長だより
- [6. 地方からの便り](#)
- [7. あなたも危険物取扱者・消防設備士に](#)